

【科目名】	リハビリテーション医学総論Ⅰ（内科・神経内科）		【担当教員】	大澤 源吾
【授業区分】	共通科目	【授業コード】	a101	(メールアドレス) osawa@nur.ac.jp (オフィスアワー) 月～水の在室時（事前連絡が必要）
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<ul style="list-style-type: none"> ・研究科での履修は、リハビリテーション医療方法を発展させ、さらに新しい方法開拓につながるものでなければならない。 ・対象とするヒトの病態の特徴を把握し、リハビリテーション医療における問題点を併せて明らかにすることができれば幸いである。 				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> ・医療は患者を中心とするものである。患者がもつ問題点を解決すべく履修してほしい。過剰な情報からの継ぎ接ぎのような論文を作ってはならない。 ・試験・レポートのフィードバック方法：メールで個別対応 				
【講義概要】				
(目的)				
<ul style="list-style-type: none"> ・一般医学の中でもとくに摂食嚥下障害、高次脳機能障害、運動科学のそれぞれのコースにかかわりの深い医学について学ぶ。 ・摂食嚥下障害関係では、摂食嚥下関連器官の機能と病態について、高次脳機能障害関係では認知症による精神機能低下や失語・失行・失認等の単症状とその背景について、運動機能科学関係では、骨・筋組織変化とその対応を中心に、広範な医学の中でも比較的限られた分野を選択的に履修する。 ・当該項目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。 				
(方法)				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・摂食嚥下障害、高次脳機能障害、運動機能科学のそれぞれのコースにかかわりの深い疾患病態とその対応について学ぶ。 				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・老化に伴う変化について説明できる。 ・脳血管障害に関わる病態について説明できる。 ・嚥下障害に関わる要因について説明できる。 ・骨・筋組織障害について説明できる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
学生時代に使った内科書など。				
【参考書】				
<ul style="list-style-type: none"> ・砂原茂一：リハビリテーション（岩波新書） ・安藤徳彦：リハビリテーション序説（医学書院） 				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>試験もしくはレポートへの取り組みで総合的に評価を行う。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60				40	100
評価指標	取り込む力・知識			60					60
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	人の老化と臓器機能低下 高齢者総合的機能評価の重要性 フレイルの概念	講義	ヒトの諸臓器の機能等を復習しておく。	90分
2	生活習慣と血管障害 運動療法の理論	講義	ホルモン分泌から効果発現までの過程。	90分
3	脳血管障害後の身体及び運動機能 うつ病態	講義	高次脳機能について学習しておく。	90分
4	廃用症候群と低栄養 サルコペニア，骨粗しょう症	講義	栄養学の初歩的学習をしておく。	90分
5	アルツハイマー病 早期治療～予防に向けて	講義	細胞の蛋白質生成機序を整理しておく。	90分
6	パーキンソン病の病態と対応 早期診断、早期治療に向けて	講義	運動と調整機能を復習しておく。	90分
7	嚥下障害と誤嚥性肺炎 胃瘻と問題点	講義	肺炎を復習しておく。	90分
8	終末期リハビリテーション その他の問題 高齢者リハビリにおけるその他の問題点 がんリハビリ	講義	どんな問題があるかを確認しておく。	90分

【科目名】	リハビリテーション医学総論Ⅱ（外科・整形外科）		【担当教員】	高橋 明美
【授業区分】	共通科目	【授業コード】	a102	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	akemi.t@nur.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 月～木：9：00～18：00
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
授業は講義形式で行う。また、講義で教授した内容についてはレポートにまとめ提出する。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
試験・レポートのフィードバック方法：レポートにコメントを付して返却します。				
【講義概要】				
(目的)				
近年のリハビリテーションの重要な役割は、「障害の予防」である。外科・整形外科分野においては「骨・関節・脊髄の痛みによる活動性の低下の予防」「運動器疾患対策の推進」が課題となっている。また、外科分野においては、がん医療推進に伴うがん患者のリハビリテーションが重要課題となっている。こうしたトピックス的な内容も含めて教授し、医療や介護分野における運動器リハビリテーションについての理解を深める。				
当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。				
(方法)				
【一般教育目標(GIO)】				
リハビリテーション医療の中で、運動器リハビリテーションの対象となる疾患や症状、リハビリテーションの方法を理解する。また、医療や介護分野における運動器リハビリテーションの役割について学ぶことで、「障害の予防」に対する理解を深める。				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・近年のリハビリテーションの役割について説明できる ・運動器リハビリテーションの意義について説明できる ・各種運動器疾患のリハビリテーションについて説明できる 				
【教科書・リザーブドブック】				
プリントを配布する				
【参考書】				
その都度紹介する				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート100%で総合的に評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	リハビリテーションの変遷 —近年のリハビリテーションの課題と方向性 障害の発生予防に視点を置いたリハビリテーションをどのように展開していくか	講義	配布講義資料を復習	90分
2	運動器リハビリテーション① ロコモティブシンドロームに視点を置いたリハビリテーションの展開	講義	ロコモについて準備学習 配布講義資料を復習	90分
3	運動器リハビリテーション② 「ロコモ」「サルコペニア」「虚弱」との関係について	講義	サルコペニアについて準備学習。配布講義資料を復習	90分
4	身体的虚弱 (Frailty) に対するリハビリテーション Frailtyの構造とリハビリテーション (評価から治療、予防まで)	講義	フレイルについて準備学習 配布講義資料を復習	90分
5	骨・関節疾患のリハビリテーション 関節リウマチや変形性関節症に代表される骨関節疾患の病態からリハビリテーション	講義	骨関節疾患について準備学習 配布講義資料を復習	90分
6	疼痛のリハビリテーション 種々の運動器疾患に伴う疼痛に対する評価から治療—CRPSとの関連	講義	疼痛について準備学習 配布講義資料を復習	90分
7	脊椎疾患のリハビリテーション 腰椎椎間板ヘルニアや頸椎症に代表される脊椎疾患の病態からリハビリテーション	講義	脊椎疾患について準備学習 配布講義資料を復習	90分
8	がん患者のリハビリテーション がん患者の問題となる廃用症候群の予防からQOL向上まで	講義	がんリハについて準備学習 配布講義資料を復習	90分

【科目名】	研究方法論		【担当教員】	八木 稔、山村 健介
【授業区分】	共通科目	【授業コード】	A104	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	八木 : yagiprev@dent.niigata-u.ac.jp 山村 : yamamurak@dent.niigata-u.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 授業終了後に教室で質問を受付ける
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
八木 : 疫学および統計学に関する基本的な知識があることが望ましい。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
八木 : 授業に基づいたレポートの提出を求める場合がある。				
試験・レポートのフィードバック方法 :				
山村 : レポートに対するコメントをメールで送付します。八木 : レポートにコメントを付けて返却します。				
【講義概要】				
(目的)				
八木 : まず、疫学的な観点から観察研究と介入研究について学ぶ。つぎに、医学統計学の基礎的な考え方、統計学的な分析方法の意味、および統計的な検定方法を学習する。山村 : これから学位研究のプロジェクトを立ち上げるにあたり、無理のない実験計画を立てるために必要な知識をディスカッションを交えながら解説します。				
当該科目と学位授与方針等との関連性 : 修士論文研究を通して、高度な知識の活用能力、批判力、論理的思考力、表現能力、プレゼンテーション能力等を総合する力を培う				
(方法)				
【一般教育目標(GIO)】				
八木 : 医療統計学を具体的に理解する能力を養う。				
山村 : 研究の基本的な進め方を身につけるため、研究に必要な基礎知識を理解する。				
【行動目標(SBO)】				
1) 観察研究と介入研究について説明できる。2) 質的なデータに関する検定, およびオッズ比, 相対危険度について説明できる。3) 数量的なデータに関する検定, および統計的推測について説明できる。4) 相関と回帰について説明できる。5) 研究とは何かを理解する。6) 研究の方法には種々のものがあるので, それぞれについての特徴を知る。7) 学術論文の構成を理解する。8) アイデアと仮説の違いを説明できる。9) 仮説に基づいて実験計画をたてることができる。				
【教科書・リザーブドブック】				
プリントを配布する。				
【参考書】				
八木 ; 中村 好一 : 基礎から学ぶ楽しい疫学 (第3版) , 医学書院, 2012. ISBN-10: 4260016695 (疫学はもとより, それに関する統計学についてのエッセンスが記してある)				
山村 ; 随時説明する。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
本学学則, 授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。				
試験 50%, レポート 50% の割合で評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50		50					100
評価指標	取り込む力・知識	50		50					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	観察研究，分析研究，および介入研究（八木） 観察研究，分析研究（コホート研究，症例対照研究）および介入研究，それぞれの特徴と考え方について講義する。	講義	準備学修：左記3つの研究様式について調べておくこと。 事後の展開：レポートを提出すること。	90分
2	統計的検定（I） オッズ比，および相対危険度（八木） カイ二乗検定およびフィッシャーの確率検定について講義と演習を行う。	講義	準備学修：カイ二乗検定について調べておくこと。 事後の展開：課題を解きレポートとして提出すること。	90分
3	統計的検定（II） 統計的推測（八木） t検定および分散分析について講義と演習を行う。	講義	準備学修：t検定と分散分析との異同について調べておくこと。 事後の展開：課題を解きレポートとして提出すること。	90分
4	相関と回帰（八木） 相関係数，相関と因果，単回帰分析，重回帰分析，およびロジスティック回帰分析について講義と演習を行う。	講義	準備学修：相関と回帰の基本的知識について調べておくこと。 事後の展開：課題を解きレポートとして提出すること。	90分
5	科学的な研究方法とは－研究の種類 学術論文の構成（山村） 科学的な研究方法とは－研究の種類 学術論文の構成	講義	準備学修：各自の研究テーマを考えておくこと。 事後の展開：各自の研究テーマにあった総説論文、原著論文を1編ずつ探すこと。	90分
6	アイデアと研究仮説の違い 仮説の立て方（山村） アイデアと研究仮説の違い 仮説の立て方	講義	準備学修：上記の原著論文を一読しておくこと。 事後の展開：各自の研究テーマについて総説論文の情報を活用しながら仮説を複数立てること。	90分
7	仮説に基づいた実験計画プランニング 文献の検索方法（山村） 仮説に基づいた実験計画プランニング 文献の検索方法	講義	準備学修：上記仮説の実現性を検討しておくこと。 事後の展開：立てた仮説の妥当性を裏付ける文献を検索すること。	90分
8	文献の読み方 軌道修正の必要性－研究例紹介（山村） 口頭試問	講義	準備学修：新たに集めた文献を一読しておくこと。 事後の展開：研究計画についてのレポートを提出すること。	90分

【科目名】	精神医学		【担当教員】	式場 隆史、的場 已知子
【授業区分】	共通科目	【授業コード】	a105	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 来学時に対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
精神医学についての一般的な基本知識を得ている(国試レベル)ものとして講義を行います。 精神医学に関する基本的な講義を受講したことのあるレベルを対象に行います。 実際の診察や面接の場面をわかりやすくするためビデオ等の教材を使いたいと思います。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
資料配布は当日に行います。 試験・レポートのフィードバック方法: レポートにコメントを付けて返却します。				
【講義概要】				
(目的)				
精神医学についての一般的な知識と治療技法について学ぶ。統合失調症や気分障害などの疾患ごとの講義のほか、精神科医療と社会、リエゾンに関しても説明する。そして、これらの中からリハビリテーションに関連することも説明する。 当該科目と学位授与方針等との関連性: 専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。				
(方法)				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・精神医学をチーム医療の観点から視点を変えて理解できるようになること。 ・身近にあるメンタルヘルス上の問題に気づけるようになること。 				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら考え、問題を見つけ、解決するための思考と行動を討論形式で実践する。 ・臨床の場面でメンタルヘルスに関する問題点を考えたり、専門医につなげたりする。 ・問題提議ができること。 				
【教科書・リザーブドブック】				
その都度紹介する。				
【参考書】				
その都度紹介する。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート提出100%で評価を行う。 1日分の講義を欠席し、出席要件を満たさない場合は、他に課題を課す。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	精神医学総論 (式場) 精神医学総論について講義する。	講義	事前に配布資料を確認しておく。	90分
2	精神科疾患学各論 (式場) 精神科の疾患について講義する。	講義	事前に配布資料を確認しておく。	90分
3	精神科治療学 (式場) 精神科の治療について講義する。	講義	事前に配布資料を確認しておく。	90分
4	精神科リハビリテーション (式場) 精神科のリハビリテーションについて講義する。	講義	事前に配布資料を確認しておく。	90分
5	精神医療現場の現状 (的場) 患者から見た精神医学	講義	事前学習：精神科の知識の振り返り ・ 事後：その日のまとめとチーム医療において自らの職種を振り返り，何が重要かを認知すること。	90分
6	看護から見た精神医学 (的場)	講義	事前学習：精神科の知識の振り返り ・ 事後：その日のまとめとチーム医療において自らの職種を振り返り，何が重要かを認知すること。	90分
7	コメディカルから見た精神医学 (的場)	講義	事前学習：精神科の知識の振り返り ・ 事後：その日のまとめとチーム医療において自らの職種を振り返り，何が重要かを認知すること。	90分
8	医師から見た精神医学 (的場)	講義	事前学習：精神科の知識の振り返り ・ 事後：その日のまとめとチーム医療において自らの職種を振り返り，何が重要かを認知すること。	90分

【科目名】	公衆衛生学総論		【担当教員】	加藤 豊広
【授業区分】	共通科目	【授業コード】	a106	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	K3027867@kadai.jp
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 来学時に対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
試験・レポートのフィードバック方法：レポートにコメントを付して返却します。				
【講義概要】				
(目的)				
公衆衛生学とは、人の集団を対象として、疾病を予防し、生命を延長し、身体的精神的能率を増進させる技術及び科学である。本講義では公衆衛生学の理論とその研究方法である疫学を学習する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。				
(方法)				
【一般教育目標(GIO)】				
公衆衛生学の知識を身につける。 統合医療の知識を身につける				
【行動目標(SBO)】				
疫学研究をデザインできる。 統合医療を説明できる。				
【教科書・リザーブドブック】				
プリントを配布する。				
【参考書】				
その都度紹介していく。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 記述式試験を実施する。試験60%、授業・課題への取り組み40%の割合で総合的に評価を行う。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		60		40					100
評価指標	取り込む力・知識	60		40					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	イントロダクション 衛生学・公衆衛生学と統合医療	講義	配布資料やノートを読んでおくこと	90分
2	健康問題の変遷 医療の歴史 I 狩猟採集漁労・農耕牧畜社会と伝統医療	講義	配布資料やノートを読んでおくこと	90分
3	健康問題の変遷 医療の歴史 II 工業社会と伝統医療	講義	配布資料やノートを読んでおくこと	90分
4	法律と医療 憲法・民法・刑法と医療	講義	配布資料やノートを読んでおくこと	90分
5	疫学 健康指標 比率（罹患率や有病率等）と人年法	講義	配布資料やノートを読んでおくこと	90分
6	疫学 観察研究 記述的な研究とコホート研究・症例対照研究	講義	配布資料やノートを読んでおくこと	90分
7	疫学 因果関係 ロスマンのパイモデルと偶然・系統的誤差	講義	配布資料やノートを読んでおくこと	90分
8	疫学 介入研究 ランダム化比較試験・非ランダム化比較試験・自己コントロール研究とEBM (evidence-based medicine)	講義	配布資料やノートを読んでおくこと	90分

【科目名】 教育心理学		【担当教員】 阿久津 洋巳	
【授業区分】 共通科目	【授業コード】 a107	(メールアドレス)	
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	hakutsu@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】 1	【コマ数】 8 コマ	(オフィスアワー) 12:40～13:30 (月～木)	
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
<p>「心理学概論」などの心理学の基礎科目を履修していると、本講義の内容の理解が深まります。 学部の統計の授業を履修していることが望ましい。</p>			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
<p>教科書や参考書で予習復習すべき箇所を授業中に伝えますので、予習復習を行ってください。また、授業中に関連する文献を紹介しますので、これも読んでください。授業には遅刻せずに出席してください。 試験・レポートのフィードバック方法：他に支障がない限り、試験答案やレポートは返却する。返却できない場合は、点数を通知する。また、課題に対する解答を考慮して授業の内容と方法に修正を加えることもある。</p>			
【講義概要】			
(目的)			
<p>教育現場において生じる問題と背景を概観した後、学習、動機づけ、記憶、知能、学力などの心理学的事項を教科書と研究論文等を使って紹介する。教育に関する事象を学術研究の成果に即して理解する能力を獲得することを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：学位授与の方針1 専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。</p>			
(方法)			
【一般教育目標(GIO)】			
<p>教育心理学の基礎事項を習得すると共に、教育に関心を持ち、教育に関する事象を科学的に理解するための視点を獲得する。教育に関する数値を扱う技能を修得する。</p>			
【行動目標(SBO)】			
<p>教育心理学のトピックについて説明できる。 授業に毎回出席して、与えられた課題レポート期限までに提出できる。 授業で指示された文献を読んで、学習した知識を応用して与えられた質問に答えられる。 授業中の文献を講読する場合は、議論に積極的に参加できる。</p>			
【教科書・リザーブドブック】			
教育心理学 第3版 (ベーシック現代心理学6) 子安・田中・南風原・伊藤 (著) 有斐閣 2015/3/23 ¥2268			
【参考書】			
教育心理学概論 (放送大学教材) 放送大学教育振興会、新訂版 三宅・三宅 (著) (2014/3/1) ¥2268			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
<p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 小テストと定期試験を実施する。授業中の議論に積極的に参加する態度を成績の評価に加える。 試験30%、レポート30%、小テスト20%、授業への参加20%の割合で評価する。単なる出席は評価に含めない。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		30	20	30				20	100
評価指標	取り込む力・知識	30	20	30					80
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	教育心理学の課題 教育心理学と学校教育	講義	教科書を読む	90分
2	発達と教育 児童期と青年期の心理と学校	講義	教科書と指定文献を読む	90分
3	適応と障害の理解 学校と不適応、発達障害	講義	教科書と指定文献を読む課題レポートを作成する	90分
4	認知心理学からみた学習 学習、記憶、思考	講義	教科書と指定文献を読む	90分
5	学級集団の理解 学級集団の役割と心理	講義	教科書と指定文献を読む 課題レポートを作成する	90分
6	教育評価の方法 教育と評価、学力テスト、性格テスト	講義	教科書と指定文献を読む 課題レポートを作成する	90分
7	教育評価の方法 教育と評価、学力テスト、性格テスト	講義	教科書と指定文献を読む 課題レポートを作成する	90分
8	グラフの見方、要約統計の読み方、推測統計の読み方 教育データと分析結果の見方	講義	教科書と指定文献を読む 課題レポートを作成する	90分

【科目名】	看護教育学		【担当教員】	尾崎 フサ子
【授業区分】	共通科目	【授業コード】	a108	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	ozaki@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	2	【コマ数】	15コマ	(オフィスアワー) 火曜日
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
試験・レポートのフィードバック方法：レポートをもとにして自身の看護を振りかえる。				
【講義概要】				
(目的)				
1, 看護の科学を支える理論的基盤として, 人間・健康・看護を学ぶ. また, 健康と保健活動・環境や文化と健康のかかわり, 国際的看護活動にも触れる. 日本における看護の歴史はどのように発展してきたかを述べる. 介護が充実してきている現在の状況がさらに発展するための視点を追求する. さらに, これからのリハビリテーションの役割と発展を論述する. 2, ここでは, 対象者とのコミュニケーションの重要性を強調する. 良好なコミュニケーションは対象者の免疫力向上及び, 実施者の職務満足につながる. 当該科目と学位授与方針との関連性: 専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う.				
(方法)				
【一般教育目標(GIO)】				
【行動目標(SBO)】				
【教科書・リザーブドブック】				
プリントを配布する・				
【参考書】				
資料を中心とする.				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う. 試験10%, レポート90%の割合で評価する.				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		10		90					100
評価指標	取り込む力・知識	10		90					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-2	看護教育学創造への道	講義	学習した内容の復習	90分
3-4	看護教育制度論	講義	学習した内容の復習	90分
5-6	看護教育制度論の特徴	講義	学習した内容の復習	90分
7-8	日本における「看護師」のなりたち	講義	学習した内容の復習	90分
9-10	看護学の発展をはばんできたもの	講義	学習した内容の復習	90分
11-12	アメリカのカリキュラム 日本のカリキュラムの方向	講義	学習した内容の復習	90分
13-14	職務満足と対象者の満足	講義		90分
15	具体例をもとに話し合う	講義		90分

【科目名】	臨床解剖学		【担当教員】	松村 博雄
【授業区分】	共通科目	【授業コード】	a109	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	304
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 来学時に対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
試験・レポートのフィードバック方法：理解度確認テストにコメントを付して返却				
【講義概要】				
(目的)				
突起や骨の形状、靭帯、腱、筋腹や皮膚のしわを参考にして皮膚の下に存在する解剖構造を知ることは、安全な臨床診療を進める上で不可欠です。また、運動、皮膚の神経支配などの知識や発生的な知識も臨床の場で大変役に立ちます。このように、局所解剖学の実際の知識が臨床の場では必要とされています。人体各部の局所解剖学を臨床と関連付けて解説します				
当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。				
(方法)				
【一般教育目標(GIO)】				
体表からの生体観察に基づく所見をもとに、その下にある局所解剖学的な構造を理解し、リハビリ診療の際に応用して役立つ。				
【行動目標(SBO)】				
生体観察の特徴をもとに、その下の解剖学的な構造を、皮膚、骨格、筋肉、神経、血管、内臓、感覚器などの観点から説明し応用する。				
【教科書・リザーブドブック】				
特になし				
【参考書】				
特になし				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。				
試験100%の割合で評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		100							100
評価指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	胸部の局所解剖学(1) 帯状疱疹と肋間神経、デルマトーム	講義	胸壁の構造	90分
2	胸部の局所解剖学(2) 浅肋間神経	講義	脊髄神経の構造	90分
3	脳神経の解剖学(1) 三叉神経痛	講義	三叉神経痛	90分
4	脳神経の解剖学(2) 鰓弓由来脳神経	講義	脳神経の核について	90分
5	膝関節 膝関節の靭帯と筋肉、腰仙骨神経叢	講義	膝関節を構成する骨性成分	90分
6	足根管 足関節の靭帯と筋、足根管の構造	講義	足関節を構成する骨性成分	90分
7	手根管 手根管の構造、腕神経叢と神経麻痺	講義	手根骨、橈骨・尺骨について	90分
8	手指の伸展機構 手指の伸筋・屈筋とその靭帯、運動機構の解剖学的構成	講義	手の骨性成分とその関節	90分

【科目名】	神経心理学		【担当教員】	道関 京子
【授業区分】	共通科目	【授業コード】	a110	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	kei.doseki@gmail.com
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー)
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
試験・レポートのフィードバック方法：毎回の講義でフィードバックしていく。不足分はフィードバックの時間をとる。				
【講義概要】				
(目的)				
1) 高次脳の機能と構造について再考し最新の知識を学習する。				
2) 高次脳機能障害である多様な症状についてその共通する機能因子を探究する観察の重要性を学習する。				
3) 視覚・聴覚・体性感覚・運動・言語・記憶等における脳機能システムおよびその障害の発現を脳部位とともに学習する。				
4) 特に前頭葉と頭頂葉の役割および右半球・皮質下との関連について学ぶ。				
当該科目と学位授与方針との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。				
(方法)				
【一般教育目標(GIO)】				
高次脳機能障害患者の様々な症状の意味を的確に把握、理解できるようにする。				
【行動目標(SBO)】				
症状理解の方法が分かる。				
【教科書・リザーブドブック】				
Luria：神経心理学の基礎-脳の働き。鹿島晴雄訳，創造出版，2003。 適宜追加資料を配付する。				
【参考書】				
山鳥 重：神経心理学入門。医学書院，1986				
Rita Carter：Mapping the Mind. University of California Press; Revised版 2010。（初版邦訳「脳と心の地形図」養老孟司監修，藤井留美訳，原書房，2000。）				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。				
研究発表を課する。授業への取り組み50%、研究課題発表50%の割合で評価する。				
講義を欠席し、出席要件を満たさない場合は、予備日に補講する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合					50			50	100
評価指標	取り込む力・知識				50			50	100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	神経心理学の歴史と方法 脳を自己制御系として認識し、精神活動、運動と行為の機能的構造、その実現の脳の役割についての研究の歴史と方法概括	講義	教科書の担当章を決定	90分
2	機能、局在、症状概念の再検討1 脳の局所病変と機能局在の基本原則 精神諸過程の系(システム)的構成	講義	担当章に関する研究：文献検索を主に	90分
3	機能、局在、症状概念の再検討2 脳の三つの基本的機能単位系 覚醒調節、情報受容、活動、相互作用	講義	担当章に関する文献研究	90分
4	脳の局在系と機能分析：後頭領域 聴覚機能 要素的視覚機能、視覚-認知機能	発表	担当章をまとめ、発表に向けた準備	90分
5	脳の局在系と機能分析：側頭領域 聴覚機能 要素的聴覚機能、聴覚-認知機能	発表	担当章をまとめ、発表に向けた準備	90分
6	脳の局在系と機能分析：感覚運動領域と前運動領域 運動の求心性機構、遠心性機構	発表	担当章発表後のまとめと考察	90分
7	脳の局在系と機能分析：前頭葉 運動と行為、記憶および知的行為、前頭葉症状群	発表	担当章発表後のまとめと考察	90分
8	脳の局在系と機能分析：後頭、側頭、頭頂領域間の第三次領域 同時性統合(具体的空間的統合、象徴的準空間的統合、言語記憶)と右半球の頭頂-後頭領域機能	講義	神経心理学の各症状について具体的に調べ考察	90分

【科目名】	リハビリテーション臨床学		【担当教員】	的場 已知子
【授業区分】	共通科目	【授業コード】	a111	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 火・水・木
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
心理学の基礎知識(国試レベル)を習得している人を対象に実践に活用することを前提に指導を行います。学外で授業を行うため、交通費等が発生する場合があります。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
自らの意見を持ち、積極的に学び、お互いに技術を高めあう姿勢を欠かさないこと。 試験・レポートのフィードバック方法:メール等で個別に対応します。				
【講義概要】				
(目的)				
リハビリテーション領域の患者は、心理検査のアプローチに対して抵抗を感じる方々がほとんどである。医療に必要な心理学では検査をすることを主観とするのではなく、患者に対するカウンセリング技術を習得し、主に精神病理学的な知識と専門技術を習得することを目的として実践指導を展開するものである。 当該科目と学位授与方針との関連性:専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。				
(方法)				
【一般教育目標(GIO)】				
・実際に応用できる基礎知識を学び、臨床に活かせる技術を身につけることができる。				
【行動目標(SBO)】				
学んだ基礎知識を応用するために様々なアプローチを用い、自ら学び考え、実践できるように独自で組み立てられる能力を得ること。				
【教科書・リザーブドブック】				
特になし				
【参考書】				
臨床心理学講義(杉浦京子)朱鷺書房,2008,¥2,800 「聞く」こと力,鷺田清一,(TBSブリタニカ) 現代言語論,立川健二・山田広昭,(新曜社) 心理査定実践ハンドブック,(創元社)				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 80%はレポートをもって評価する。20%は課題への取り組み等・				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80				20	100
評価指標	取り込む力・知識			80					80
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	リハビリテーションにおける臨床心理学とは。 実践（臨床体験） ケース検討	実践	準備：心理学について学んできた内容を整理しておくこと。 事後：ケースから学んだ内容を振り返り、洞察する。	90分
2	人間理解の方法 実践（臨床体験） ケース検討	実践	準備：心理学について学んできた内容を整理しておくこと。 事後：ケースから学んだ内容を振り返り、洞察する。	90分
3	臨床心理学の基礎理論 実践（臨床体験） ケース検討	実践	準備：心理学について学んできた内容を整理しておくこと。 事後：ケースから学んだ内容を振り返り、洞察する。	90分
4	心理学援助の方法Ⅰ 実践（臨床体験） ケース検討	実践	準備：心理学について学んできた内容を整理しておくこと。 事後：ケースから学んだ内容を振り返り、洞察する。	90分
5	心理学援助の方法Ⅱ 実践（臨床体験） ケース検討	実践	準備：心理学について学んできた内容を整理しておくこと。 事後：ケースから学んだ内容を振り返り、洞察する。	90分
6	心理学援助の方法Ⅲ 実践（臨床体験） ケース検討	実践	準備：心理学について学んできた内容を整理しておくこと。 事後：ケースから学んだ内容を振り返り、洞察する。	90分
7	様々な分野における連携と応用Ⅰ 実践（臨床体験） ケース検討	実践	準備：心理学について学んできた内容を整理しておくこと。 事後：ケースから学んだ内容を振り返り、洞察する。	90分
8	様々な分野における連携と応用Ⅱ 実践（臨床体験） ケース検討	実践	準備：心理学について学んできた内容を整理しておくこと。 事後：ケースから学んだ内容を振り返り、洞察する。	90分

【科目名】	リスク管理学		【担当教員】	田中 裕
【授業区分】	共通科目	【授業コード】	a112	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	tyutaka@dent.niigata-u.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	8コマ	(オフィスアワー) 来学時に対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
試験・レポートのフィードバック方法：授業時に対応				
【講義概要】				
(目的)				
近年、高齢社会を迎え、急性循環不全・呼吸不全など、医療現場において患者の生命を脅かすような不測の緊急事態に遭遇することは決して少なくない。特に、超高齢者や摂食・嚥下障害者では経口摂取を目指して援助を行う時には、誤嚥、窒息、肺炎などの生命にかかわるようなリスクを抱えながら進めることになる。そこで、この講義ではこれら医療現場における「患者の全身状態の把握方法」と「医療事故の発生を防止する対策」について学び、適切かつ安全な医療の提供が行えるような知識を身につけることを目的とする。当該項目と学位授与方針との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。				
(方法)				
【一般教育目標(GIO)】				
医療事故の発生防止対策及び医療事故発生時の対応方法について学び、適切かつ安全な医療の提供が行えるような知識を身につける。				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> バイタルサインとその評価方法について説明できる・心肺蘇生法適切に行える・AEDを適切に使用できる 救急蘇生について説明できる・全身疾患とそのリスクについて説明できる 				
【教科書・リザーブドブック】				
瀬尾憲司：これで一次救命処置はわかった AHAガイドライン2015に沿ったBLSの理解のために、医歯薬出版（3,800円＋税）				
【参考書】				
BLSプロバイダーマニュアル AHAガイドライン2015準拠、株式会社シナジー（3,900円＋税）				
ハートセイバー・ファーストエイドCPR AED受講者ワークブック、株式会社シナジー（2,600円＋税）				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。				
本講義の記述式試験を実施する。試験40%、レポート40%、授業・課題への取り組み20%の割合で総合的に評価を行う。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40		40				20	100
評価指標	取り込む力・知識	40		40				20	100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	リスク管理学 総論 リスク管理総論 バイタルサインの読み方・考え方	講義	事後：学修した内容の復習	90分
2	リスク管理学 各論1-1 循環器系疾患患者のリスク管理	講義	事後：学修した内容の復習	90分
3	リスク管理学 各論1-2 呼吸器系疾患患者のリスク管理	講義	事後：学修した内容の復習	90分
4	リスク管理学 各論1-3 代謝・内分泌系疾患患者のリスク管理	講義	事後：学修した内容の復習	90分
5	リスク管理学 各論1-4 その他の疾患を有する患者のリスク管理	講義	事後：学修した内容の復習	90分
6	リスク管理学 各論2-1 救急蘇生1 —成人・小児乳児の心肺蘇生法—	講義	事後：学修した内容の復習	90分
7	リスク管理学 各論2-2 救急蘇生2 —AEDの使用法、窒息の解除法—	講義	事後：学修した内容の復習	90分
8	リスク管理学 各論2-3 救急蘇生3 —生命を脅かす緊急事態の対応—	講義	事後：学修した内容の復習	90分

【科目名】 職場マネジメント		【担当教員】 小野 東	
【授業区分】 共通科目	【授業コード】 a113	(メールアドレス) ono@innovator.or.jp (オフィスアワー) 講義の無い時は随時メール対応	
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択		
【単位数】 1	【コマ数】 8コマ		
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件) 前提知識は特に必要ありません。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 本講義は単なる知識の習得ではありません。職場におけるさまざまな問題や事例が登場します。新人の方も管理職候補や管理職の方もそれぞれの立場で参考になるように構成しています。一緒に考えていただくことを期待しています。 試験・レポートのフィードバック方法：各自のレポート内容に応じたコメントを付して返却し質問にもメール等にてお答えします。			
【講義概要】			
(目的) 医療でも企業でも職場は単に人が集まっただけではなく、一定の使命や責任を持つ「組織」を形成しています。組織は人なりと言います。組織を形成することで一人では不可能なことが実現できます。逆に人が集まることで、働く人相互の葛藤や課題や悩みも生まれます。また人は職場を通じて自らの夢を実現できます。時間的に最も長い時間を過ごす場でもあります。ですから職場は人生そのものという側面もあるのです。 当該科目と学位授与方針との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う。			
(方法)			
【一般教育目標(GIO)】 皆さんが将来働いてより良い人生が過ごせるように、大学、病院、企業等の職場と組織の管理やマネジメントとは何かを学びます。すでに働いている方やこれから働く方、また管理者の方や新人の方にも職場の運営や職場改善に役立てることができる能力を獲得していただくことを目標とします。			
【行動目標(SBO)】 ・職場の使命とその達成のためのマネジメントや個人との関係について学ぶ。 ・職場形態及び職場のさまざまな課題や問題、さらには成長戦略について学ぶ。 ・内部統制やコンプライアンスについて学ぶ。 ・職場の現場あるいは日常運用とそのマネジメントについて学ぶ。			
【教科書・リザーブドブック】 パワーポイント等によるオリジナルテキストを配布します。			
【参考書】 講義中に必要なものを適宜紹介します。			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法) 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 授業中の質疑応答等20%、最終課題のレポート80%の合計を満点として評価する。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80				20	100
評価指標	取り込む力・知識			80					80
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	職場と組織 事例から職場全体像について学ぶ。	講義	学修した内容の復習を行う	90分
2	組織の管理とマネジメント 職場運営の本質とその管理及びマネジメントについて根本から学ぶ。	講義	学修した内容の復習を行う	90分
3	さまざまな組織 組織運営とそのマネジメントの立場から組織のさまざまな形態とその特徴や負うべき責任について幾つかの例を学ぶ。	講義	学修した内容の復習を行う	90分
4	組織の変革と成長 組織運営の根本的な部分について学ぶ。	講義	学修した内容の復習を行う	90分
5	組織の内部統制 組織の社会的責任とは何か、またそれを果たせる組織とはどうあるべきかについて学ぶ。	講義	学修した内容の復習を行う	90分
6	現場のマネジメント 労務管理、人間関係、業務執行状況、失敗と成功そしてそのフィードバック。それらの管理やマネジメントの考え方について学ぶ。	講義	学修した内容の復習を行う	90分
7	職場は人 人を育てることは必須だが実践は簡単ではない。今回は総合的に人と関連した課題について学ぶ。	講義	学修した内容の復習を行う	90分
8	日常マネジメント 日々のマネジメントは細かなことの繰り返しである。日常的にマネジメント体制を維持運営することについて学ぶ。	講義	学修した内容の復習を行う	90分

【科目名】 教育指導法		【担当教員】 鈴木 憲雄
【授業区分】 共通科目	【授業コード】 a114	(メールアドレス)
【開講時期】 前期	【選択必修】 選択	norisuzuki@nr.showa-u.ac.jp
【単位数】 1	【コマ数】 8コマ	(オフィスアワー) 開講日の授業終了後に質問を受付
【注意事項】		
(受講者に関わる情報・履修条件)		
(受講のルールに関わる情報・予備知識)		
試験・レポートのフィードバック方法：課題発表については、発表終了後、発表内容についてフィードバックを実施する。試験については、試験終了後、解答を示すとともに解説を実施する		
【講義概要】		
(目的)		
皆さんは、今後、専門領域の研究者として使命を果たす一方で、後輩育成等あるいは教育施設での講義など、教育者としての役割を担うことが予想されます。例えば授業を担当する場合、何を準備するとよいのだろうか。どのように指導したらよいのか、何を教えたらいよいのか等、疑問は尽きません。本科目は、授業を実施するための準備として必要となる教育指導法に関する基礎的知識を学びます。		
当該科目と学位授与方針との関連：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う		
(方法)		
【一般教育目標(GIO)】		
授業を計画、実施し、学習の程度を適切に評価するために必要となる基礎的知識を身につける。		
【行動目標(SBO)】		
01/ 「教える」の意味を説明できる。02/ 教授錯覚とは何か説明できる。03/ 「一般目標」「行動目標」「教育目標の3領域」とは何か説明できる。04/ 情意領域の行動目標をポファムの方法により作成できる。05/ 「一般目標」「行動目標」を作成できる。06/ シラバスとは何か説明できる。07/ 形成評価、総括評価とは何か説明できる。08/ 多肢選択問題を作成できる。09/ 正答率、識別指数を算出できる。		
【教科書・リザーブドブック】		
必要に応じて資料を配布する。		
【参考書】		
日本医学教育学会：医学教育マニュアル1 医学教育原理と進め方、篠原出版新社、1978日本医学教育学会：医学教育マニュアル2 カリキュラムの作り方、篠原出版新社、1979池田輝政・他：成長するティップス先生、玉川大学出版部、2001 斎藤喜博：授業の展開、国土社、2010他、授業内で紹介します。		
【評価に関わる情報】		
(評価の基準・方法)		
《成績評価の基準・方法》		
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。試験40%、課題発表60%の割合で評価する。課題発表は、事前に示すルーブリック評価により採点する。欠席により出席要件を満たさない場合は、別途課題を課し評価する。		

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40			60				100
評価指標	取り込む力・知識	40			60				100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	「教える」の意味 教育目標の階層性 (SB0s1及び2に該当)「教える」の意図的用法、 成功的用法、教授錯覚、教育施設の目標、ポリシー、 コンピテンシー	講義	学修した内容の復習	90分
2	教育目標の種類 (SB0s3に該当) 一般目標、行動目標、教育目標 の3領域	講義	学習した内容の復習 教育目標立案 演習で扱う科目の選定	90分
3	教育目標立案 (SB0s4及び5に該当) ポフアムの方法、テーマに 沿った教育目標立案演習	講義	学習した内容の復習	90分
4	教育目標立案 (SB0s5に該当) テーマに沿った教育目標立案演習 及び発表準備	講義	次回の発表に向けての準備	90分
5	教育目標立案 シラバス (SB0s5及び6に該当教育目標の発表と討議(課題1) シラバスに記載すべき内容	講義	学習した内容の復習	90分
6	学習評価 (SB0s7に該当) 形成的評価、総括的評価、ルーブリック 評価	講義	学習した内容の復習、多肢選択問題 作成演習の準備	90分
7	試験 (SB0s8に該当) 客観試験 多肢選択問題作成の原則、 多肢選択問題作成演習(課題2)	講義	学習した内容の復習	90分
8	試験 (SB0s9に該当) 正答率、識別指数	講義	学習した内容の準備	90分